



ROHM
SEMICONDUCTOR

CSR Report 2010

<ダイジェスト版>



CSRレポート2010

INDEX

事業活動の基本理念	2
トップメッセージ	3
ロームのCSR	4
[TOPICS1] 環境配慮型製品	7
[TOPICS2] お客さまに密着したグローバル体制	9
お客さまとのかかわり	11
お取引先さまとのかかわり	12
社員とのかかわり	13
株主・投資家の皆さまとのかかわり	15
社会・地域の皆さまとのかかわり	16
環境への配慮	17
ロームグループの概要／第三者コメント	18

[次回発行予定：2011年6月下旬の発行を予定]

*本報告書では、海外関係会社を下記のように記載しています。

REPI	: ROHM Electronics Philippines, Inc.	(フィリピン)
RIST	: ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.	(タイ)
RSC	: ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd.	(中国)
REDA	: ROHM Electronics Dalian Co., Ltd.	(中国)
RWEM	: ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.	(マレーシア)
RMPI	: ROHM Mechatech Philippines, Inc.	(フィリピン)
RMT	: ROHM Mechatech (Thailand) Co., Ltd.	(タイ)

*CSR : Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任)

編集方針

■冊子版とWEBサイトの関係

ロームは2000年より環境報告書を発行し、その後社会的側面を加えて2007年からはCSRレポートとして発行してきました。また2009年からは冊子(ダイジェスト版)の発行とWEBサイトの両面での報告としています。

冊子(ダイジェスト版)

重要な取り組みに的を絞り、手にとって分かりやすくお伝えする。



WEBサイト

CSR活動について網羅的かつ詳細に開示された情報の中で、関心のある活動を選択していただき、その内容を深く理解していただく。



■報告内容

ロームにおけるCSRにかかわる基本的な体制、ステークホルダーの皆さまへの姿勢及び2009年度の実績と2010年度の目標について報告しています。

*環境面の詳細情報については、WEBサイト上の「環境データブック」にて報告しています。

*財務面の詳細情報については、「アニュアルレポート」にて報告しています。

■報告対象範囲

ローム及びロームグループ各社(国内・海外関係会社)の活動について報告しています。

■報告対象期間

2009年4月1日～2010年3月31日

*ご理解を深めていただくため、一部それ以前からの取り組みや直近の活動内容も記載しています。

参考にしたガイドライン

●Global Reporting Initiative
「サステナビリティ・レポートング・ガイドライン 2006」



ロームは、社会から信頼され、期待される企業であるために、創業当初からかかげている企業目的をすべての社員に浸透させています。

企業目的

われわれは、つねに品質を第一とする。
いかなる困難があろうとも、良い商品を
国の内外へ永続かつ大量に供給し、
文化の進歩向上に貢献することを
目的とする。

さらにこの企業目的を達成するための重要な経営基本方針が事業活動の指針となり、あらゆる事業分野でその展開を図っています。

経営基本方針

社内一体となって、品質保証活動の徹底化を図り、
適正な利潤を確保する。
世界をリードする商品をつくるために、
あらゆる部門の固有技術を高め、
もって企業の発展を期する。
健全かつ安定な生活を確保し、
豊かな人間性と知性をみがき、もって社会に貢献する。
広く有能なる人材を求め、育成し、
企業の恒久的な繁栄の礎とする。

創業以来、情報化社会の進展や価値観の多様化等、企業を取り巻く環境は変化していますが、これらの方針は不変かつ、事業活動の原動力となっています。

Top Message

ロームは企業目的である「われわれは、つねに品質を第一とする。いかなる困難があろうとも、良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、文化の進歩向上に貢献することを目的とする。」をもとに、創業当初より事業の業績向上と社会への貢献を重視しながら事業活動を行ってまいりました。これまで活動を続けてこられたのも、お客さま、お取引先さま、株主・投資家の皆さま、社会・地域の皆さま、社員など、ロームを取り巻くさまざまなステークホルダーの皆さまのご支援があったることと、心より感謝申し上げます。



また、近年はCSR（企業の社会的責任）経営について、環境や多様性に配慮したグローバル化への対応など、ステークホルダーの皆さまからの社会的な期待が高まってきております。

この様な状況を踏まえ、社内CSR推進委員会でロームCSRのあるべき姿を検討してまいりましたが、この度、「ロームグループCSR基本方針」を定め、ステークホルダーの皆さまに対して目指すべき姿を明らかにいたしました。

ロームはステークホルダーの皆さまのおかげで、2008年に創立50周年を迎えることができました。次の50年「NEXT50」に向けて、繁栄しながら永遠に存続する会社となるよう、今後とも一層の社会的責任を果たすことで、ステークホルダーの皆さまとの良好な関係を築いてまいります。

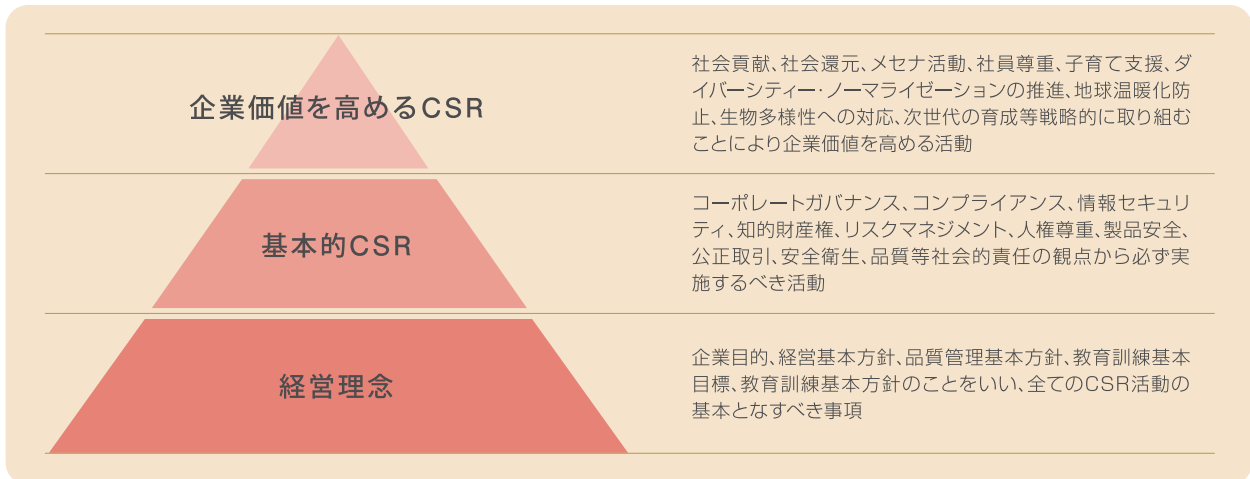
多くの皆さまにこのレポートをご一読いただき、ロームグループのCSRへの取り組み姿勢についてご理解いただければ幸いに存じます。

ローム株式会社
代表取締役社長

澤村 諭

ロームでは、「企業目的」、「経営基本方針」等の基本理念を踏まえた「ロームグループCSR基本方針」を定めています。この考え方に基づき、下図のようにロームグループのCSR活動を推進しています。

【ロームグループのCSRのフレームワーク】

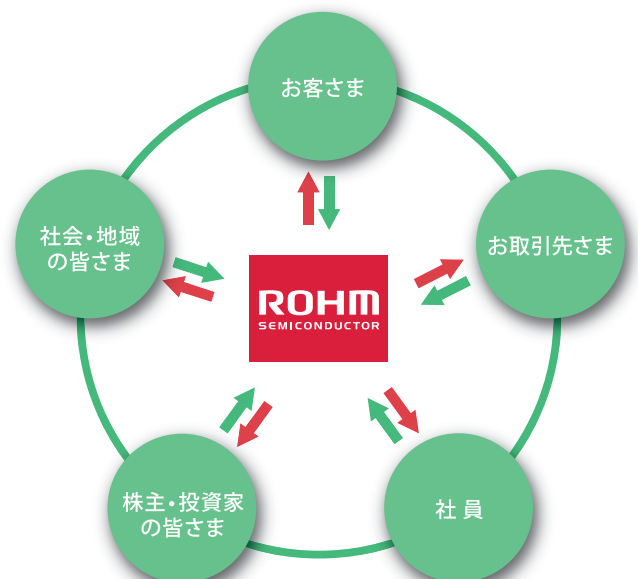


【ロームグループCSR基本方針】

我々は、企業目的、経営基本方針等の経営理念に則り、グローバルな視点で誠実に事業活動を行い、社会の持続的な発展に貢献する。また、以下のとおりあらゆるステークホルダーの皆さまと良好な関係を構築し、社会からの信頼を得て、企業の持続的な発展を目指す。

1. 我々は、**お客さま**に対しては、優れた品質、性能を有する製品と適時的確なサービスを安定的に供給することにより、お客さまの満足と信頼を得ることを目指す。また、お客さまへの誠実な対応を心がけ、製品の安全性を最優先し、それに関する情報の適切な開示に努める。
2. 我々は、**お取引先さま**に対しては、公正で合理的な基準によってお取引先さまを選定するとともに、お取引先さまとの信頼関係を大切に、対等かつ公正な取引を行い、お互いが繁栄することを目指す。
3. 我々は、**社員**に対しては、安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、人間性と個性を尊重し、公正で明るい職場をつくり、一人ひとりの働きがいを高めることを目指す。
4. 我々は、**株主・投資家の皆さま**に対しては、継続的な企業価値の向上を実現させ、適正な利潤を確保することにより、株主・投資家の皆さまへ還元することを目指すとともに、積極的かつ幅広いIR活動を通じて説明責任を果たす。
5. 我々は、**社会・地域の皆さま**に対しては、各国、地域社会との交流を深め、それぞれの文化、歴史を尊重するとともに、社会貢献活動や、文化・芸術活動等の実施又は支援活動を行う。また、事業活動を通じた地球環境保全活動を積極的に行う。

【ロームとステークホルダー】



ロームでは、2007年12月に、CSRを推進する専門組織として環境管理部 CSR推進室を設置しました。

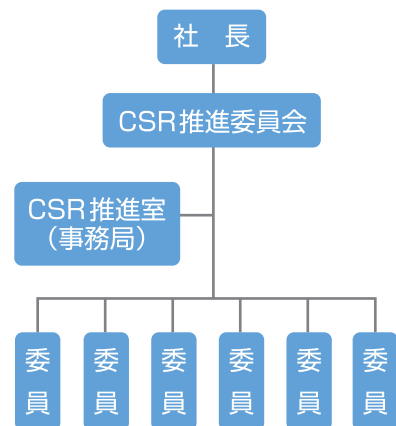
また、2008年6月に発足したCSR推進委員会は多岐に渡る部門から、社歴・性別にとらわれない委員により構成されています。あらゆる方面からの幅広い意見を取り入れた、ロームならではのCSRを目指して活動しています。

【2009年度の実績と2010年度の目標】

2009年度はCSR推進委員会において、いかに社員にCSR意識を浸透させるか議論を重ね、「ロームグループCSR基本方針」を策定しました。この「ロームグループCSR基本方針」は、ロームグループ社員一人ひとりにCSRに関する意識の定着を図り、これにより、ステークホルダーの皆さまと良好な関係を構築することを目的としています。

2010年度はこの「ロームグループCSR基本方針」に基づき、社員一人ひとりがロームのCSRを意識し、行動できるよう社内での教育をさらに強化し、継続して実施していきます。

【CSR推進体制】



【取り組みハイライト】

2009

社員へのCSR教育

全社員を対象とした、「ロームのCSRに関する説明会」を継続的に実施しています。この説明会においては、ロームにおけるCSRについての考え方、実際の活動内容、社員一人ひとりに期待することなどの説明を行い、CSR意識が全社員に浸透することを目標としています。2010年6月時点でおおよそ6割の社員が受講済みです。



(2010.4.23)

社員とご家族向け環境学習の実施

環境への意識が高まる中、ロームではローム社員とご家族に対して、環境学習を実施しました。ローム製のLEDを利用した環境学習を行い、エコを実感してもらいました。



(2010.2.27)

その他

- ・社内報、イントラネットを通じたCSR教育の実施
- ・各職場のCSRリーダー選任
- ・社会貢献活動の推進（ゴミ拾い等）
- ・CSR意識調査の実施
- ・ステークホルダーダイアログの実施（社員対象）



ダイアログの様子



ゴミ拾い (2010.5.20)

2010

- 小学校での環境教育の実施
- 社員へのCSR教育の継続実施
- 社内コミュニケーションの活性化による社員のCSR意識の更なる向上
- 働きがいのある職場づくり
- ロームグループの社会貢献活動の推進
- 新たな社会貢献活動への取り組み 等



社内報

【マネジメント体制】

テーマ	2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標
CSR	社員へのCSR意識の浸透	<ul style="list-style-type: none"> ・ロームグループCSR基本方針の策定 ・社員への説明会の継続実施 ・社内報等によるCSR教育活動を実施 ・各職場へのCSRリーダーの設置 ・社員とのダイアログの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・全社員への説明会の実施 ・ロームグループでのCSR活動の推進 ・CSRリーダーを通じた社内活動の展開
コンプライアンス	コンプライアンス体制・啓蒙活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスに関する意識調査実施 ・コンプライアンス・リーダー選任、コンプライアンス・ホットライン設置（海外関係会社） ・インサイダー取引に関する研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス強化月間の設定 ・改定版「ロームグループ行動指針」の周知 ・独占禁止法等、個別テーマでの研修の充実 ・関係会社へのコンプライアンス・サポート
事業継続マネジメント (BCM)	事業継続マネジメント体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・BCM推進プロジェクト発足 ・事業継続計画 (BCP) の策定 ・本社に非常用発電機・救護用テントを導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な行動計画の策定 ・BCPに基づく想定訓練の実施 ・各拠点（新横浜駅前ビル、京都駅前ビル）への緊急地震速報自動放送及び防災備蓄品の導入
知的財産の保護	社員の知的財産に関する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・新入社員に対する教育を実施 ・技術部門に対する特許教育を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・社員の知的財産に関する意識の向上の継続 ・効率的な特許出願と質の向上
情報セキュリティ	ロームグループで同一のセキュリティレベルの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・OKIセミコンダクタのシステムインフラの強化を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロームグループのシステムインフラの標準化

【ステークホルダーの皆さま】

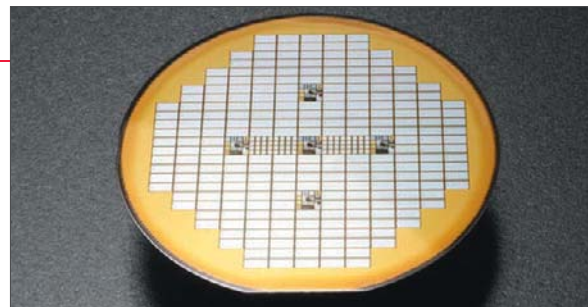
テーマ	2009年度の目標	2009年度の実績	2010年度の目標
お客さま	クレームの撲滅と安定したものづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・改善点の水平展開 ・設計審査の強化と4M*の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> ・品質問題の徹底的な分析と改善活動の推進 ・新製品の設計審査と変更管理の徹底
お取引先さま	取引基本契約書の締結とCSRに配慮した事業活動の推進依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・CSRの内容を盛り込んだ取引基本契約書の締結率86% ・お取引先さまに対して、CSRのアンケートを実施 ・お取引先さま評価に、CSRの条項を盛り込んで実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSRの内容を盛り込んだ取引基本契約書の締結率100%目標 ・新グリーン調達ガイドラインに則った管理運用の開始・徹底 ・国内外関係会社のお取引先様に対するCSRのアンケートの実施と改善依頼
社員	プロ意識を備えた自立した人材の育成と社員の能力発揮を最大化する組織の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・階層別研修、部門別研修の充実による知識/意識の向上 ・マネジメント研修の実施により風通しのよい職場づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・「社員が志気高く自立的に仕事を行い、創造性を発揮できる環境づくりを推進すること」を目標に掲示 ・個人の能力伸張と、意見が飛び交う活気ある職場づくり ・豊かな個人生活、懐の深い組織の実現
株主・投資家の皆さま	連結フリーキャッシュフローの100%を下回らない額を、配当及び自己株式の取得を通じて、株主の皆さまへ還元	<ul style="list-style-type: none"> ・年間配当金1株当たり130円を実施（中間配当金1株当たり65円、期末配当金1株当たり65円） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「継続的な安定配当」の実施
社会・地域の皆さま	次世代社会を担う人材の育成と社会文化への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・清華ローム電子工程館の着工 ・「京都ものづくりの殿堂」への出展 	<ul style="list-style-type: none"> ・清華ローム電子工程館の建設 ・小学校での環境教育の実施
	ロームグループでの社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ロームグループ社会貢献活動状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロームグループでの社会貢献活動の情報共有・活性化 ・新たな活動の提案・実施

* 4M: MAN (人)、MACHINE (設備)、MATERIAL (材料)、METHOD (方法)

ロームは、事業活動を通じて 省エネルギーに貢献していきます。

SiCパワーデバイス

現在、広く使われているパワーデバイスはシリコン（珪素：Si）で出来ています。しかし、近い将来シリコンを使ったパワーデバイスは性能限界に近づくと言われていました。そこで注目されているのが、シリコンカーバイド（炭化珪素：SiC）です。こうした流れを先取りしてロームでは2004年にシリコンカーバイドを用いたMOSFETの試作に成功するなどSiCデバイス/モジュールの研究開発を進めてきました。

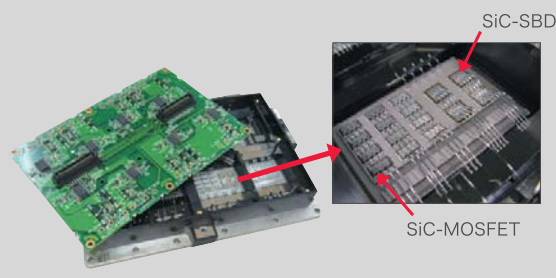


SiC-MOSFET ウェハ

環境にも優しい次世代パワーデバイス

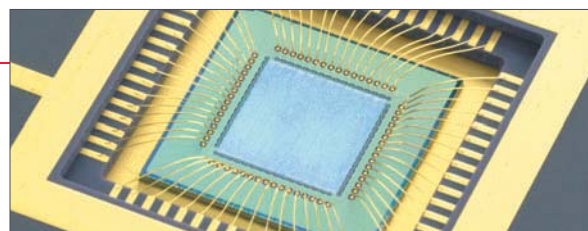
シリコンカーバイドのパワーデバイスは、シリコンに比べ、高電圧・大電流をより小さい損失でオン・オフでき、電力のムダを少なくできるとともに、より高温にも耐えられるため、インバータなどの機器の小型化、省エネ化にも寄与できます。パワーデバイスは電気を効率よくコントロールする役目を担うもので、家電から産業用まで数多くの製品に組み込まれています。地球温暖化防止に向けて高効率機器や省エネ機器の需要が高まるなか、ロームは次世代パワーデバイスとして電力損失の大幅な低減が期待できるシリコンカーバイドパワーデバイスの開発に力を入れています。

次世代電気自動車向けハイパワーインバータモジュール試作例



不揮発性ロジック技術

機器の高性能化が進むにつれ、機器が消費する電力も年々大きくなってきています。これに対して、ロームでは、（電源は入っているけれど）処理を行っていない一部の回路やLSIの電源を切ることで、省エネ効果のあるシステムを実現する技術を開発しました。



不揮発性ロジック技術を用いたCPU（不揮発性CPU）の試作例

電源供給なしで情報を保持する技術

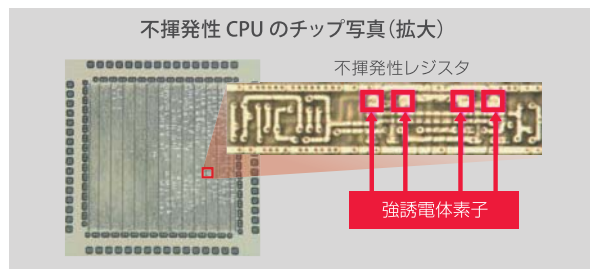
現在、一般に使われているCPUなどのロジック系LSIは、電源が切れるとデータが消えてしまうため、処理をしていなくても電源を切ることができませんでした。一方、ロームが開発した技術では、LSIの電源を切ってもデータを残すことができる（不揮発性という）ため、処理をしていないLSIは電源を切ることができます。

テレビ感覚でパソコンを使用できる技術

ロームの技術を応用することで、家電製品などのデータを保持するために消費されていた150億Wh/年*におよぶ無駄な電力を削減することが可能です。また、パソコンに応用した場合、これまで何十秒もかかっていた起動時間を短縮し、テレビ感覚で使用することもできるようになると考えています。

* 「待機時消費電力調査報告書」(財)省エネルギーセンターから推定。日本国内。

不揮発性CPUのチップ写真(拡大)



不揮発性ロジック技術の応用先の例

情報家電全般

高性能・情報化する
家電全般の組み込み
LSIに導入可能

パソコン

起動時間の高速化
テレビ感覚での利用
が可能に



LED照明

LEDには、従来の光源と比較して、消費電力・ランニングコスト・CO₂排出量・寿命の4つの省エネルギー効果があります。あかりとしての明るさとクオリティを追求しつつ、人と環境にやさしい照明を実現していきます。

様々な場所で活躍するロームのLED照明

立命館大学スポーツ健康科学部／研究科・新教室棟
インテグレーションコア ラルカディア

2010年4月開講の立命館大学スポーツ健康科学部施設の共有スペースにロームのシームレスシリーズ・ダウンライトが採用になりました。



立命館大学スポーツ健康科学部



廊下スペースにシームレスLED照明を設置



シームレスLEDベース照明

2009年、ロームとして初めてグッドデザイン賞を受賞。口金部分を無くしたことで、光源が端まで光り、一直線の光のラインを作り出すことが可能。

担当者の声



モジュールユニット FAEG
准技術員
網干 貴美子

日本のエネルギー消費量のうち、家庭では26%、オフィスビルでは40%を照明が占めています。ロームでは更なる高効率化、多機種化を目指し、日々LED照明の開発に取り組んでいます。お客さまからは、「ロームのLED照明は明かりがやわらかく、優しい印象を受ける」との声をいただいています。今後も、環境はもちろん、光の質を追求したLED照明を提案したいと思います。

ロームのグリーンビル

ローム株式会社 京都テクノロジーセンター／京都ビジネスセンターのリニューアルでは、全て自社開発によるLED照明を採用しています。



館内のLED設置事例



エントランスは、継ぎ目を感じさせないシームレスLED照明による洗練されたイメージで演出



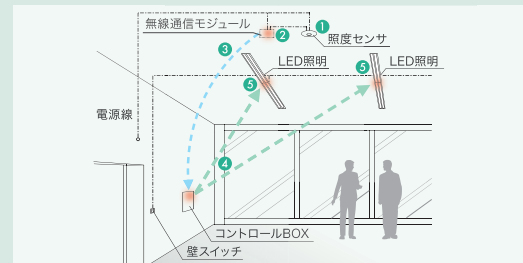
事務所フロアはLED照明と自然光を利用した無線通信調光システムによって、さらなる省エネを実現



食堂には、ゆったりとくつろげるように温かみのある中光色のLEDを使用

LED照明ソリューション

消費電力を大幅に削減するとともに、自然光を感じながら調光する無線通信による省エネ調光システムを導入し、自然光の明るさを活用しています。



- 1 部屋の明るさを照度センサが検知。
- 2 部屋の明るさレベルを電気信号へ変換し、無線通信モジュールへ送信。
- 3 天井裏の無線通信モジュールは、受けた信号をコントロールBOXへ発信。
- 4 コントロールBOXは設定された部屋の明るさレベルを確保するため、各LED照明へ調光レベルを指示する。
- 5 調光レベルを受信した各LED照明は、指示に沿った調光を行う。

LEDの導入だけでなく、ビルの存在そのものをエコに

屋上緑化

屋上を緑化することで景観に配慮し、さらにヒートアイランドの緩和を図ります。

写真は一部イメージです。



ダブルスキンカーテンウォール

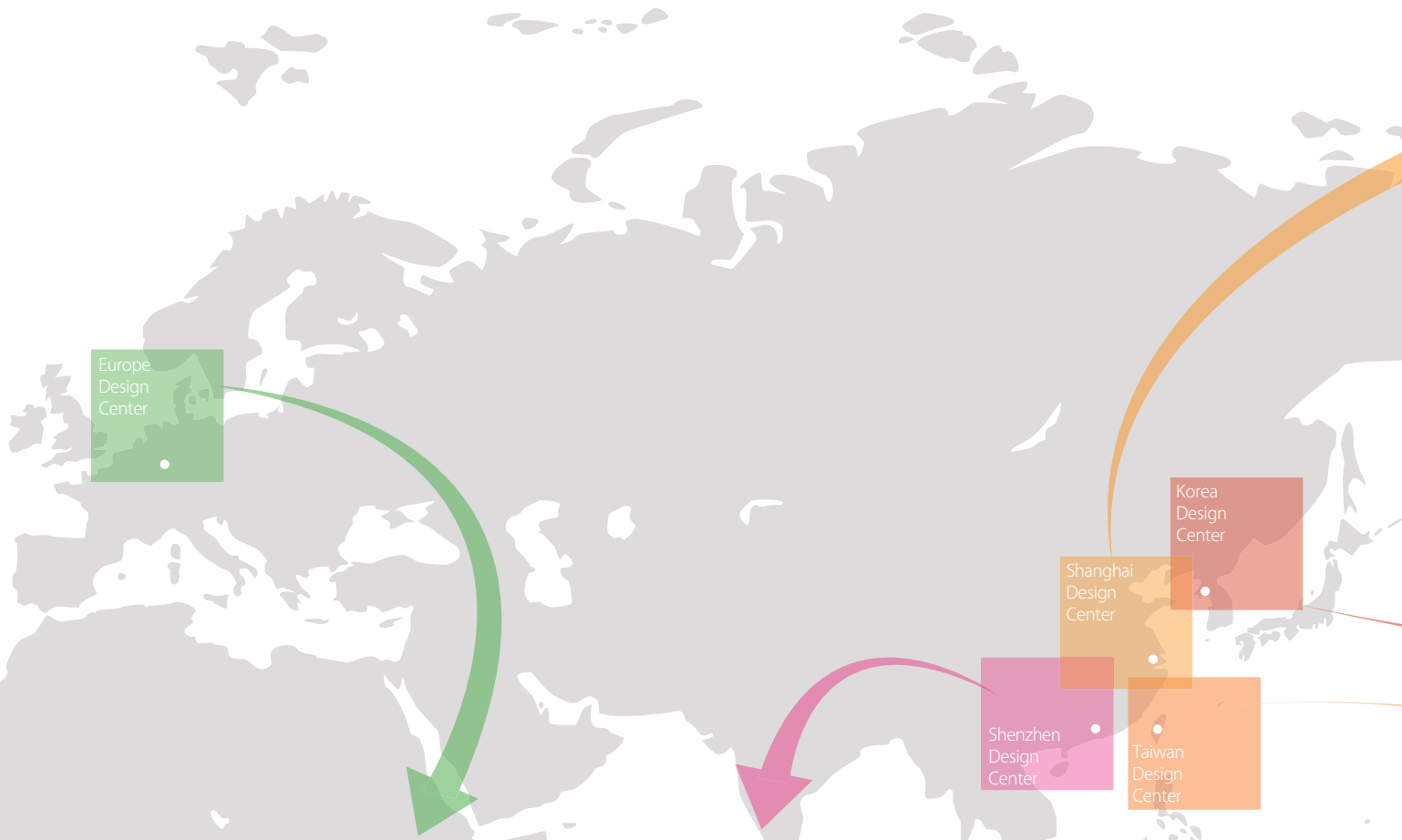
窓面からの熱負荷を軽減し、ブラインドを設けることで日射の負荷軽減も行います。自然通風も取り入れられ、冷暖房の効率を高めます。



Global system of ROHM

ロームではお客様の要望をしっかりと把握し、要望に合った製品を迅速に提供するため、現地の開発エンジニアがお客様に密着できる体制をとっています。

今後も開発・営業・製造が一体となって、現地のニーズに合わせたものづくりを加速し、新製品を生み出していきます。



Europe Design Center

Korea Design Center

Shanghai Design Center

Shenzhen Design Center

Taiwan Design Center



DUSSELDORF

ヨーロッパデザインセンター
Fenno de Vries

今、世界中でエコをキーワードとして環境対策が注目されていますが、ここ欧州は特にその意識が強い地域です。電子機器メーカー各社が低消費電力化に取り組む中、私たちはLED照明分野に注目し、そのLEDを駆動するICを開発しています。欧州には世界でも屈指の照明機器大手メーカーが数社あり、私たちの製品に興味を持っていただいています。リーズナブルで高効率な製品を作ることで、一般照明のLED化を促進し、世界中のエネルギー消費削減に貢献していきたいと思っています。



SHENZHEN

深圳デザインセンター
胡 震宇 (Max Hu)

いかに早くリーズナブルな価格で製品を開発するかが求められる中で、製品の良さや特徴を的確に判断していただくには、完全なソリューションの提案が重要になってきています。私たちはお客様の視点に立って、製品をいち早く企画し、ロームLSIをコアとしたソリューションを提案しています。また、応用回路やセット基板、ソフトウェアの開発支援やフォローアップまでを全て現地で行っています。今後も一貫したサポートでお客様のご要望に応じていきます。





SHANGHAI

上海デザインセンター

金 東輝 (Jin Donghui)

お客様の声を取り入れるためには、まずロームから積極的に発言をしなければならないと考えています。ある分野に対してロームの技術を使ってどんなことができるのか、どんなビジネスモデルを必要とするのかをみんなで考えて具体的に提案すればお客さまからも有効なフィードバックをたくさん得ることができると思います。

上海デザインセンターは若くて活気のある拠点です。中国ビジネスに万能な組織として成長していくよう、皆さんと一緒に頑張りたいと思っています。

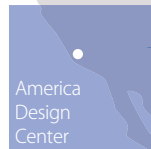


SEOUL

韓国デザインセンター

文 同秀 (Mun Dong-Su)

韓国はパネルと携帯電話の市場が大きく、伸び続けています。そのような製品は、開発期間が短いため、問題があった際には迅速に対応できるかどうかが非常に重要となります。私たちは現地大手のお客さまを担当しており、定期的な訪問によってニーズを把握しています。また、お客さまと共に製品を作りこんでいく中で問題が生じた際には、お客さまの視点で解決できるように心がけています。今後もお客さまとの信頼関係を高くし、ニーズに合ったフォローを実施していきます。



TAIWAN

台湾デザインセンター

卓 建源 (Taku Ken Gen)

台湾は特に、パソコン周辺のモジュールに関係する企業が多く、フレキシブルな対応が求められています。私たちは、お客様の声に機敏に反応し、豊富なラインアップを活かしたトータルソリューションを提案しています。また、お客さまと戦略的なパートナーとなり、ニーズを話し合うことで、ロームならではの関係を築いています。これらを土台に、日本から見る台湾ではなく、台湾から世界を見据えたグローバルな視点で成長して行きたいと思っています。



SAN JOSE

アメリカデザインセンター

Ruben A. Balbuena

お客さまとの打ち合わせの前に、お客さまの製品の構成、特徴、市場の動向を把握して、ロームの提案はお客さまにどのような付加価値を与えるかストーリーを描きます。実際に打ち合わせを行う際に、一方的に提案するのではなく、お客さまと会話をしながらその提案内容が適切かどうかを確認しています。製造はアジアの諸国で行われますが、新製品の起案は米国のエンジニアから生まれることも多くあり、お客さまとの密な関係は新たなビジネスに結びつきます。



お客さまとのかかわり

お客さまの求められる性能と機能を有した製品を適時に安定的にお届けするとともに、優れた品質により安心してお使いいただき、信頼されるローム製品でありつづけることがロームの使命と考えています。

【2009年度の実績と2010年度の目標】

2009年度は、クレームを撲滅するために設計審査の強化と4M^{*1}の適正化を行うとともに、工程や市場からの品質情報をもとに改善点の水平展開に取り組んできました。2010年度は、品質問題の本質を徹底的に分析し、改善活動を推進していきます。創業以来、掲げてきた「われわれは、つねに品質を第一とする・・・」の企業目的を初心にかえって実践するため、経営方針の一つを「品質第一」と定め、新製品の設計審査や変更管理を徹底することにより十分な工程能力^{*2}のある次世代品質レベルを目指してチャレンジしていきます。

^{*1} 4M:MAN(人)、MACHINE(設備)、MATERIAL(材料)、METHOD(方法)

^{*2} 工程能力:その工程で生産された製品が、どの程度決められた規格を満足できるかを知る指標

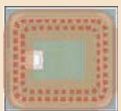
【品質管理基本方針】

1. 社内標準化を全社的に推進し、データによる管理体制を確立する。
2. 総合的かつ継続的な調査活動を行い、新技術、新製品の開発に努める。
3. 企業活動のあらゆる分野において、統計的方法を積極的に活用する。
4. すべての工程において、品質保証の体制を確立する。
5. つねに生産方法の近代化を図り、製品のコスト低減に努める。
6. 材料、半成品の購入に際しては、契約によって納品者に品質保証をさせること。

壊れない製品づくり

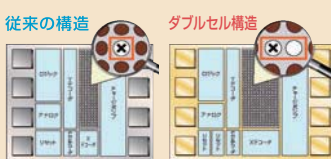
小さな形状の中に、多くの機能を盛り込んだ半導体部品は、一般に壊れやすいものです。ロームではこの問題に挑戦し壊れない製品づくりに取り組んでいます。トランジスタでは静電気により部品が壊れることを防ぐために保護機能を盛り込んだ高耐圧トランジスタを開発し、またLSIでは、専門チームが過酷な条件下でも壊れない回路の開発や保護回路導入を促進し、長期に亘り安心してご使用いただける製品の提供を行っています。

【高耐圧トランジスタ】



独自の外周保護Di構造により、高静電破壊耐量を実現

【ダブルセルEEPROMメモリー】



万一、内部の一部が破壊した場合でも代替えできる素子や回路をあらかじめ組み込んでおくことで機能を維持できる構造にしています。

徹底した品質管理教育

製品の設計、生産、販売、お客さま支援のあらゆる面で品質第一を実践するために、ロームでは品質管理の社員教育に積極的に取り組んでいます。QC手法、信頼性技術等の知識はもとより、「次工程はお客さま」、「品質は思いやり」との精神に則り社内取り組みと誠意ある顧客対応ができる人材育成を目指しています。



社内品質管理教育風景

ワールドワイドのお客さま対応

クレーム即日対応(24時間以内のクレーム回答)

世界中のお客さまに迅速かつ密着した対応をさせていただくために、世界の主な拠点9箇所にQA^{*3}センター(本社は含まない)と名づけた各種解析装置を保有した製品解析センターを設置しています。技術対応のできるスタッフが地域に密着した対応をさせていただくとともに、日々解析技術レベルの向上に努めています。製品不具合情報をいただいた場合には、24時間以内にお客さまにクレーム回答を実施することを目標として活動しています。ローム本社を中心に各拠点をTV会議システムでつなぎ、タイムリーな情報共有ができる体制を整え、お客さまのご要望にお応えしています。

^{*3} QA: Quality Assurance (品質保証)

【QAセンターの設置】



お取引先さまとのかかわり

ロームの企業目的は、つねに品質を第一とすることです。この基本理念のもと、国内・海外すべてのお取引先さまとともに、人類の健康的な存続と社会への貢献を目指していきます。

【2009年度の実績と2010年度の目標】

2009年度は、CSRの内容を盛り込んだ取引基本契約書の締結を進めること等を通して、CSRの推進をお願いしてきました。2010年度は、引き続きすべてのお取引先さまとの取引基本契約書の締結完了を目指すとともに、最新化学物質管理規制及びREACH規則に対応した環境負荷物質管理体制を構築するため、グリーン調達基準を刷新し、お取引先さまにご協力をお願いしていきます。

調達方針

ロームでは、以下の項目をロームグループの調達方針として定め、お取引先さまからご理解をいただいています。

ロームグループ調達方針

1. 関係法令を遵守し、環境保全・資源保護に配慮した取引を目指します。
2. お取引先さまに対しては、常に対等な立場で接し、公明正大な取引を目指します。
3. お取引先さまとのコミュニケーションを大切に、良好な関係づくりを目指します。

CSR調達

ロームグループでは、お取引先さまへの工場監査結果、環境評価認定結果、ISO取得状況等をチェック項目に加え、定期的にお取引先さまの評価を行っています。

また、下記の項目をCSRの推進項目と定め、お取引先さまに対しても、CSRに配慮した事業活動を積極的に行っていただけるようお願いしています。

～CSRに関するお取引先さまへのお願い～

1. 人権・労働 …………… 強制的な労働の禁止等
2. 安全衛生 …………… 機械装置の安全対策、
職場の安全・衛生等
3. 環境 …………… 製品に含有する化学物質の管理等
4. 公正取引・倫理 …………… 優越的地位の濫用の禁止等
5. 品質・安全性 …………… 製品安全性の確保等
6. 情報セキュリティ …………… コンピュータ・ネットワークの
脅威に対する防御等
7. 社会貢献 …………… 社会・地域への貢献等

お取引先さま選定基準

1. ロームグループの基本的な考え方を理解していただけること
2. 健全な事業経営を推進していること
3. 品質・納期・安定供給を保証していただけること
4. 競争力のある価格であること
5. 優れた技術と新規性がある開発力を有していること
6. サービス、情報提供に協力的であること
7. 環境保全へ積極的に活動していること
8. CSRを積極的に推進していること
9. 企業倫理が浸透していること



海外での監査の様子 (RIST)

【新・下請法遵守マニュアル】



企業の恒久的な繁栄の礎となるのが、社員一人ひとりの力です。社員の人格を尊重し、適材適所に努めることにより、社員の専門性を活かし、主体性を発揮できる「自己実現企業」を目指します。

【2009年度の実績と2010年度の目標】

2009年度は、「プロ意識を備えた自立した人材育成と、社員の能力発揮を最大化する組織をつくる」ことに取り組んできました。階層別研修、部門別研修の充実による知識・意識の向上を図り、またマネジメント研修により風通しのよい職場づくりを進めました。2010年度は、「社員が志気高く自立的に仕事を行い、創造性を発揮できる環境づくりを推進する」ことを目標に掲げました。個人の能力伸長や、意見が飛び交う活気ある職場づくりに継続して取り組むとともに、豊かな個人生活、懐の深い組織を実現するために、ワークライフバランス、ダイバーシティも積極的に推進していきます。

■ 人権尊重について

ロームは、国際労働機関（ILO）による「労働における基本原則及び権利」を尊重し、ロームグループ全体のスタンダードとして強制労働や児童労働の禁止、機会均等と多様性の尊重、性別・年齢・国籍・人種・民族・信条・宗教・社会的身分及び身体障がい等を理由とした不当な差別の禁止、結社の自由及び団体交渉の自由を規定し、一人ひとりの人権を尊重しています。また京都人権啓発企業連絡会に加盟し、積極的に人権啓発運動に参加しています。2009年12月11日には、人権啓発企業連絡会の全国集会が京都で開催され、ロームは常任幹事会社としてその企画、運営に協力しました。

■ 社員の意欲にこたえる表彰制度（社長賞/改善提案）

ロームは、年齢や性別に関係なく実力のある人材を積極的に登用し、社員の意欲を業績につなげています。業績に貢献した社員に対しては、社長賞として表彰し、表彰金を贈呈する等、社員の創意を引き出し、成果に報いる仕組みを取り入れています。2009年度社長賞表彰式では、約300件の表彰を行いました。また、ロームでは、社員のアイデアを業務に活かすため改善提案活動も実施しており、日常のちょっとした気づきから大きな改善効果を生むものも多くあります。効果の大きな改善提案は表彰し、モラルの向上を図っています。今年度の「改善提案コンテスト」では約900件の応募があり、優秀賞として17件を表彰しました。



社長賞表彰風景 (2010.1.29)



改善提案コンテスト (2009.9.1~8)

■ ダイバーシティへの取り組み

ロームでは、外国人学生の採用を推進しています。2009年度には3名（2%）、2010年度には9名（8%）、そして2011年度はさらに採用数を増やしていく予定です。留学生の採用に関する疑問に答えるため、留学生専用のホームページも整備しました。これからも国籍、性別を越えグローバルに広く活躍できる人材を採用していきます。

■ 教育制度

人材育成の日々実践をうたった「教育訓練基本目標」、「教育訓練基本方針」のもと、新入社員研修・階層別研修はもとより、専門性を高める教育プログラム等を備えています。2009年度の研修受講者は1,508人にのぼり、1年間に社員の半数近くが何らかの研修を受けています。2010年度は営業、開発など部門別の研修にも力を注ぎ、さらに社員のスキルアップのためのカリキュラム開発を進めていきます。



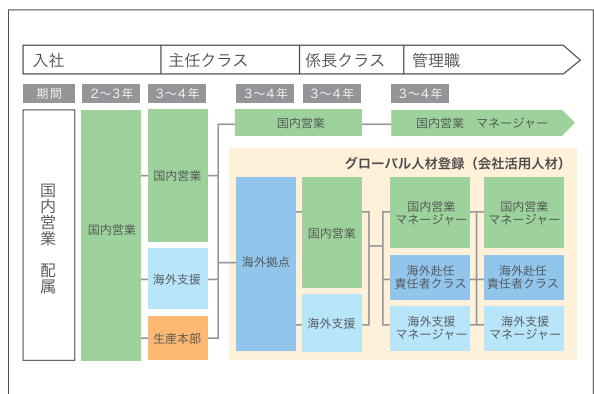
営業4年目研修 (2009.8.6)

■ グローバル人材の育成

ロームは、2009年度にグローバル人材育成制度を整備しました。社員一人ひとりが、それぞれのステージで最大限の力を発揮できるように、キャリアプランを社員に提示しています。管理、営業部門では、活躍のフィールドを広く世界に持ちたいという人材を育成し、世界各地へと派遣しています。入社時より、自身のキャリアを意識させて、世界へ羽ばたく人材となる夢を持たせ、それが実現できるようキャリアプランニングや研修の実施という形でサポートしています。

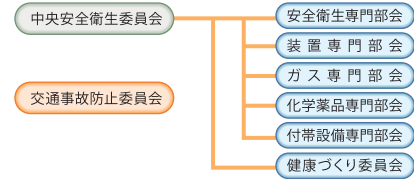


グローバル人材研修 (2010.2.4~5)



キャリアプラン（営業職）

安全衛生基本方針に基づき、社員の安全確保と健康の保持増進を図るとともに、快適な作業環境の形成を促進するために、中央安全衛生委員会をはじめ、右記の様に組織し、活動しています。



【2009年度の実績と2010年度の目標】

2009年度は、徹底した再発防止策により、ローム本社休業災害発生ゼロの記録を15年に更新しました。また、健康づくり活動の活性化のひとつとして各種イベントへの新規参加啓蒙を図り、2008年度20%であった新規参加率を50%に引き上げることができました。2010年度は、適切な決めごとを作り、これを守れる安全衛生風土を作るということも目標に加え、ロームグループ全体での休業災害発生ゼロを目指します。また、健康づくり活動として特にメンタルヘルス対策に重点を置き、メンタルヘルス不調者の減少を図ります。

【安全衛生基本方針】

1. 我々は、製品の開発・製造・販売及び輸送の活動において、安全衛生管理に関するすべての法令及び社内規定を遵守するものとする。
2. 我々は、設備・機械・原材料・プロセスの安全衛生確保上適正な方法でのみ、製造・販売・輸送及び廃棄を行う。
3. 我々は、すべての従業員に対して安全衛生に関する教育・訓練を継続して行うとともに、自ら率先垂範して実践する。
4. 我々は、我々の製品及び職場の化学薬品等について、その安全性・健康への影響度を事前評価した上で、従業員及び関係者に周知させる。
5. 我々は、危険物等による緊急事態への対処方法の確立にリーダーシップを持って取り組み、社内のみならず地域への影響を防ぐ。
6. 我々は、すべての従業員の健康確保に努め、快適かつ健康的な職場の形成を推進する。
7. 我々は、継続して自主的に上記の活動を見直し、適切な改善を行うことにより、安全衛生管理レベルの向上を図る。

15年間休業災害ゼロ達成と無災害記録証の受理

ローム本社は15年間休業災害ゼロを継続しています。2010年3月には労働時間換算で連続6,400万時間に達し、現在も記録更新中です。2004年には労働基準監督署から最上位（第五種）の記録となる「無災害記録証」を受け、今後も災害ゼロを目指した活動を継続していきます。



第五種無災害記録証



休業災害ゼロ15年達成ポスター

健康づくり活動

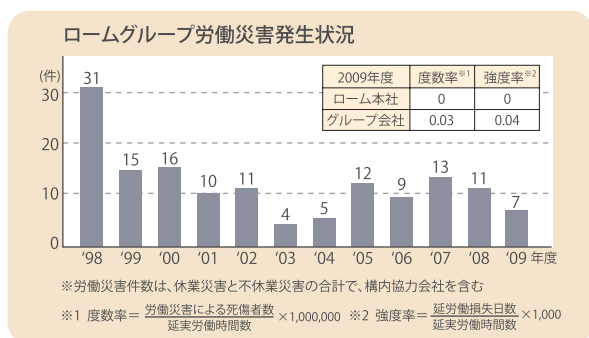
社内に健康保持増進を目的とした「健康づくり委員会」を組織し、社員の健康づくりのために種々の活動を行っています。中でもロームの代表的な行事である「歩こう会」は、毎年春と秋に開催しており、社員やその家族等約200名の参加者があり、季節や景色を満喫しながら数キロ歩いた後、皆で様々なゲームやイベント等で盛り上がり、楽しく健康的な休日をご過します。「歩こう会」は今春で35回目を迎えました。



第35回歩こう会 京都・嵐山方面 (2010.4.3)

ロームグループ労働災害発生状況

安全衛生活動の充実により、近年は年間数件から十数件の災害件数となっています。



メンタルヘルス対策

社員のメンタルヘルス対策として、セルフケアとラインケアのメンタルヘルス研修の実施や、パンフレットやチラシ等を配付し、啓蒙活動を行っています。また、カウンセラー資格を保持した社員による相談窓口や、医務室に常駐の看護師（心理相談員）による相談、加えて精神科医による診察で、心のケアと日々の職場の改善に取り組んでいます。



管理者向けメンタルヘルス研修 (2009.6.30)

株主・投資家の皆さまとのかかわり

ロームでは、株主・投資家の皆さまが重要なステークホルダーであるとの認識のもとに、企業価値の創造と向上を目指しています。

【2009年度の実績と2010年度の目標】

2009年度は期初の予定通り、中間配当金は1株当たり65円、期末配当金は1株当たり65円とし、年間合計1株当たり130円の配当を実施することとしました。2010年度は「継続的な安定配当」を実施することとし、年間配当金は1株当たり130円の継続を目指しています。

基本方針

株主さまへの利益配分については、業績、財務状況および将来の企業価値向上に向けた事業投資のための資金需要などを総合的に勘案したうえ、その期待に応えられるような施策を推し進めています。

株主還元の実績推移

(年度)	2005	2006	2007	2008	2009
配当金 (円)	90	100	230*	130	130
1株当たり当期純利益 (円)	416.39	413.56	284.66	89.76	65.09

※ 2007年度の配当金には、創業50周年特別配当(100円/株)を含みます。

IR活動

世界中の株主・投資家の皆さまに対して公正で正確な、また理解しやすい情報をタイムリーに開示する等のIR活動を通じて積極的なコミュニケーションを図っています。

ホームページでの情報開示

個人投資家の皆さまにもタイムリーに情報を提供するため、ホームページに株主・投資家さま向けのページを設けています。決算短信、有価証券報告書等の法定開示書類に加えて、アニュアルレポート、決算説明会資料、財務データの推移等、幅広い投資関連情報を分かりやすく掲載しています。



アニュアルレポート2009

〈株主・投資家情報〉[URL] <http://www.rohm.co.jp/financial/index.html>

決算説明会、インフォメーションミーティング

リサーチアナリストやファンドマネージャーなど、機関投資家の皆さまに対して決算説明会を開催するとともに、海外の投資家さま向けにIRロードショーを毎年2回実施しています。



証券アナリスト・機関投資家さま向け決算説明会(2009.11.10)



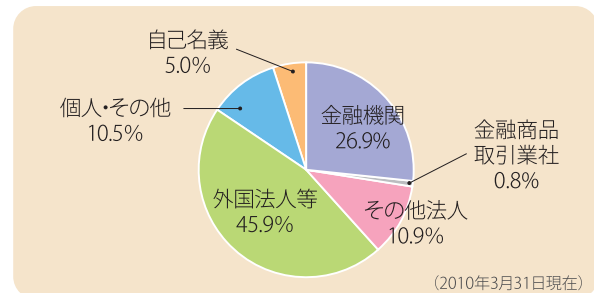
海外での投資家さま向け説明会(2009.6.1)

株主総会

株主総会の活性化や議決権行使の円滑化に向けての取り組みを進めています。

定時株主総会開催の約4週間前に招集通知を発送しているほか、英文招集通知のホームページへの掲載、また、インターネットを通じた議決権行使の受付など、議決権を行使しやすい環境の整備に努めています。また、外国人株主判明調査に基づくIR活動や議決権行使促進等の取り組みを行っています。

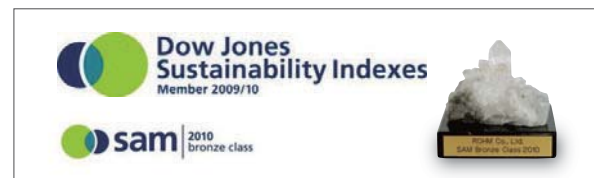
【株主の構成】



社会的責任投資(SRI: Social Responsible Investment)における評価

企業の社会・環境・倫理的側面を投資の判断基準とする社会的責任投資(SRI)において、ロームは、SRI関連評価機関から高い評価を受け、様々なSRIインデックスの構成銘柄に選定されています。

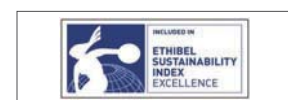
ロームが組み込まれている主なSRIインデックス



Dow Jones Sustainability Indexes



FTSE4Good Index Series



Ethibel Sustainability Index



MS-SRI (モーニングスター社会的責任投資株価指数)

社会・地域の皆さまとのかかわり

ロームは、エレクトロニクスを通じて文化の進歩向上に貢献するとともに、「良き企業市民」を目指し、長年に亘って様々な社会貢献活動を行っています。

■ 音楽文化への支援活動

優れた音楽は、人と人を結び、芸術と文化の可能性を実感させてくれる素晴らしい世界です。ロームでは、音楽文化の振興に寄与し、若き才能を育み、音楽を通じて国際交流を高めるために、数多くのコンサートを企画・開催してきました。これからもロームは、さらに幅広い音楽支援活動を目指していきます。

小澤征爾音楽塾への協賛

「若い音楽家を育てたい」という小澤征爾氏の熱い思いに賛同し、2000年に始まったオペラ・プロジェクト以来、協賛しています。

2009年度 音楽塾公演協賛実績

【オーケストラ・プロジェクトI】

4/6：京都、4/9：東京、
4/13：天津、4/15：北京、
4/17：上海

【オペラ・プロジェクトX】

7/20：横浜、7/23：東京、
7/26：大津、7/29：名古屋、
8/1：浜松

【コンサート】

7/30：京都



■ 一日も早い復興を願って大規模自然災害の被害に義援金を寄付

ロームはフィリピンでの台風16号被害に対する義援金として、2009年10月5日にフィリピン政府へ300万ペソ（約573万円）を寄贈しました。

ロームはグローバル供給体制の主要生産拠点としてフィリピンで事業を展開しています。生産拠点での直接的な被害や生産体制への影響はありませんでしたが、大規模な風水害により生じた被害に対して義援金の寄付を実施しました。



(2009.10.5)

また、2010年1月12日に発生したハイチ大地震に伴う被害に対する復興支援として、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームを通じて200万円の義援金を寄付しました。

死者20万人超、被災者300万人超の未曾有の被害をもたらした今回の地震から、被災地域が一日も早く復興することを願っています。

■ ローム記念館プロジェクト

ロームは、社会に有用な新しい技術を開発することが、文化や社会の進歩向上に資するものと考え、国の研究機関、大学、異分野企業等と積極的に広く連携しています。特に産学連携をより深く進めるため、立命館大学、同志社大学、京都大学の敷地に「ローム記念館」を建設・寄贈するというかたちで積極的なプロジェクトの具現化を図っています。

清華大学（中国北京市）とローム記念館

「清華ローム電子工程館」の建設について合意

ロームと清華大学は、2006年4月に締結した「包括的産学連携契約」に基づいて、電子デバイスの最先端技術開発に関する積極的な産学連携を行ってきましたが、2011年4月に開催予定の清華大学100周年記念式典に合わせて約20億円を投じてローム記念館「清華ローム電子工程館」を建設することで合意しました。国際的な産学連携をさらに推進するための中核的な拠点として活用される予定です。

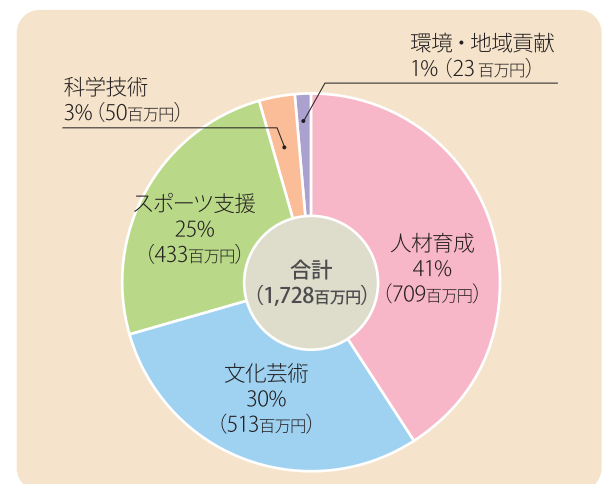


「清華ローム電子工程館」イメージ

■ 経済的な支援

ロームは地域社会の活動や福祉・教育活動等に企業として積極的に参加するとともに、スポーツ・文化芸術活動に協賛することでも社会貢献を行っています。ロームのこれらの活動に対する経済的側面での支援状況は産学連携に対する費用を含めて、2009年度において17億2千8百万円となりました。

【社会貢献活動に対する支出の内訳（2009年度）】



環境への配慮

【環境方針】

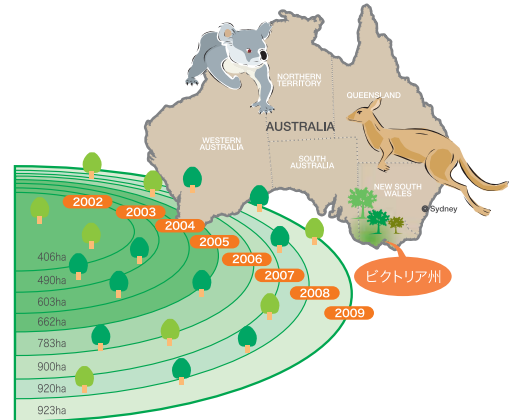
われわれは、つねに地球環境保全に配慮し、
人類の健康的な存続と企業の恒久的な繁栄に貢献するものとする。

1. 省エネルギーをすべての企業活動で創意工夫し徹底する。
2. 環境配慮型製品を開発し、製品のライフサイクルを通して環境負荷の最小化を追求する。
3. 材料・副資材の調達や製品の購入は、より環境負荷の少ないものを優先する。
4. 国内外の環境法規制や地域協定を遵守する。
5. 生活環境や地球環境に配慮する社員の育成と関係者の啓発に努める。
6. 地域環境への貢献や環境情報の適切な開示により、社会との健全な連携を図る。

【2009年度の実績と2010年度の目標】

2009年度は、CO₂はもちろんそれ以外の温室効果ガス（PFCガス類）の排出削減に積極的に取り組みました。具体的には、ローム本社、ローム・アポロデバイス、ローム・ワコーデバイスでPFC除害装置を追加導入し、年間で約2,100(t)のCO₂を削減することができました。地球温暖化防止の観点から2001年よりオーストラリア南部のビクトリア州で「ロームの森」と名付けた植林活動も行っています。2009年度での植林総面積は923(ha)に達し、この植林による二酸化炭素(CO₂)の固定量は2009年度の国内生産拠点におけるエネルギー起源CO₂排出量のおよそ45%に相当します。2010年度からは、植林後10年が経過した成木の伐採を行い、そのあとに新たな苗木を植え、さらにCO₂の固定化を図ります。

さらに、2009年度からは欧州REACH規則に対応する為、JAMP（アーティクルマネジメント推進協議会）調査ツールを使用した環境負荷物質調査を開始し、管理の強化に取り組んでいます。2010年度の課題として、生物多様性に配慮した事業活動の推進が挙げられます。具体的には事業活動で必要となる水の使用量を2020年までに10%削減する目標を設定しました。それ以外にも、大気環境、水域環境に排出される化学薬品の量を20%以上削減する活動を行っています。2010年度も引き続き地球環境保全への取り組みを積極的に進めていきます。

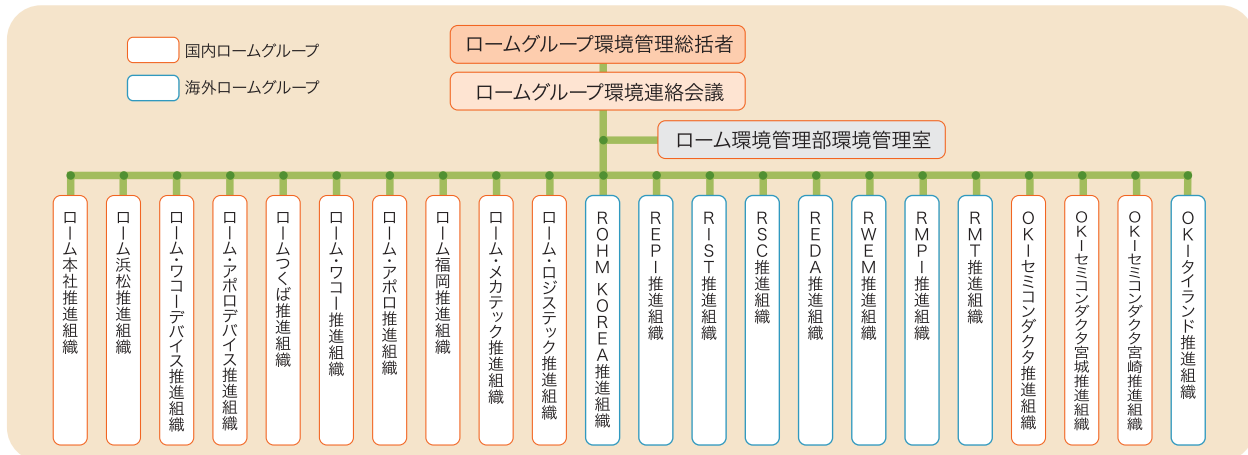


■ 環境マネジメントシステム

ロームは環境の国際規格ISO14001を基本としたロームグループ共通の環境マネジメントシステムをグループ全体に展開し、環境の継続的改善に全社員で取り組んでいます。ロームグ

ループの環境活動は絶えずグローバルな視点をもって連結ベースで展開しています。2008年10月からOKIセミコンダクタ社がロームグループに加わり活動を行っています。

【ロームグループ環境保全推進体制】



★「環境データブック」のホームページ掲載について

ロームでは、本報告書がどの立場のステークホルダーの皆さまに対しても、より理解しやすいものとなるよう心がけて作成しています。このため、環境に関する詳細情報を独立させ、ホームページ上で開示しています。環境に関する詳細な情報はホームページよりご覧ください。

[URL] <http://www.rohm.co.jp>

ロームグループの概要／第三者コメント

商号 ローム株式会社／ROHM Co., Ltd.
所在地 本社／〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21
TEL: (075) 311-2121
FAX: (075) 315-0172
設立 1958(昭和33)年9月17日
資本金 86,969百万円(2010年3月31日現在)
代表者 代表取締役社長／澤村 諭
従業員数 連結 21,005人(2010年3月31日現在)
売上高 連結 335,640百万円(2010年3月期)

生産品目

IC/LSI

- ・EEPROM
- ・クロックジェネレータ
- ・リセットIC
- ・モータドライバ
- ・パワーマネジメントLSI
- ・LED/LCDドライバ
- ・センサIC
- ・オペアンプ・コンパレータ
- ・アナログスイッチ/ロジックIC
- ・D/Aコンバータ
- ・情報機器/インタフェース用LSI
- ・映像用LSI
- ・オーディオ用LSI

電子部品

- ・抵抗器
- ・タンタルコンデンサ
- ・3端子EMIフィルタ

モジュール

- ・パワーモジュール
- ・マルチラインセンサヘッド
- ・サーマルプリントヘッド

半導体応用製品

- ・バイオチップ

個別半導体

- ・トランジスタ
- ・ダイオード

光半導体

- ・LED
- ・LED照明モジュール
- ・LEDディスプレイ
- ・半導体レーザ
- ・光センサ
- ・IrDA赤外線通信モジュール
- ・リモコン受光モジュール

ローム製品の活躍例

様々な所でロームの製品が活躍しています。



第三者コメント

ローム株式会社「CSRレポート2010」を読んで

CSR基本方針から始まるCSR経営

ロームグループ全体を対象とするCSR基本方針を制定されました。5つのステークホルダーごとに基本方針を定め、対応する2009年度の目標と実績、2010年度の目標を示されたことは、大変高く評価されることです。次の課題は、これらの目標を中期経営計画など事業の目標とリンクさせ、より具体的な実現への行動計画を示し、マネジメントしていくことだと思います。

本業を通じた環境CSR活動への期待

特集記事では、ロームが開発する製品を通じて、システムの省エネ化が進み世界規模での電力節減に貢献できると紹介されています。環境に配慮した製品を開発するだけでなく、人々の生活スタイルを変える可能性のある事業だと思われるので、その発展に大変期待するとともに、CSRの視点を取り入れた開発や事業展開を意識することも重要になるのではないかと考えます。これには社外からの意見を聞く機会も必要です。ステークホルダーダイアログの開催などを検討される時期かと思います。

コンパクトでわかりやすいダイジェスト

わずか18ページに要点が詰まっている、という印象を受けました。紙幅の関係で、グローバル体制の記事に対し、理解の前提となる企業グループの紹介が少ないため関係把握にやや困難な点も見受けられますが、ダイジェスト版として、グループ丸となってCSRを推進している姿勢を強く感じさせることに成功しています。社員の声や外部の声をもっと掲載し「顔の見える」関係があれば、よりリアリティを持って読むことができるでしょう。



環境管理会計研究所 取締役
公認会計士
梨岡 英理子



www.rohm.co.jp

